雲晴

おしえの花束

春彼岸号

「雲　晴」第十四号
平成二十七年三月一日発行

貞林院瑞正寺
〒125-0041 東京都葛飾区東金町五－四六－五
電話（〇三）三六二七－三四一一
FAX（〇三）五六九九－五九一五

地獄の食堂、極楽の食堂

地獄にも食堂がありましてね。ちょっと、閻魔大王にお願いして特別に見せていただいたのです。

いやいや地獄というのに、テーブルにはなかなかのご馳走が並んでいるのです。

テーブルについた人々はといえば何ともやせ衰え、ガリガリで眼ばかり光っています。

しばらくして鬼のボーイがやってきて、ナイフやフォークを配っていきました。さあ、人々はいっせいにナイフとフォークを持って料理へと向かいましたが、いくらあせっても料理を口に入れることができません。

なぜなら、ナイフもフォークも長さが二メートル近くあって、とても扱えないのです。もうテーブルの上はメチャクチャ。怒ったボーイがあっという間に片づけてしまいました。

いささか地獄の人々に同情しましたから、閻魔大王に申しました。「少しひどいじゃないですか。あれでは食べられません」

すると閻魔大王は、極楽の食堂へと案内してくださいました。

こちらも一流ホテルなみの立派なテーブルにご馳走が並んでいます。人々は穏やかに語り合っています。そこへ例の二メートル近い長さのナイフとフォークが現れました。さて、これではまた食べられないぞ、と見ていると、何と極楽の人々はおいしそうに食べるではありませんか。なぜかというと、長いナイフで料理を食べやすくしたあと、長いフォークで自分の向こうの席に座っている人に食べさせてあげているのです。お互いにやさしく、食べさせ合っているのです。地獄の食堂と極楽の食堂の違いがはっきりわかりました。

これと同じ光景を、現実のこの世でもよく見かけます。

さてあなたがいつも食事をする場所は、地獄ですか、極楽ですか。あなたはいつもどちらで食事をとっていますか。

●和敬清寂●

宗慶寺住職　本多宗敬

先日、甥（兄）と姪（妹）が仲良く遊んでいると思っていたら、突然けんかをし始めました。なだめてから話を聞くと、妹が大切にしているおもちゃをお兄ちゃんが馬鹿にして壊してしまった事が原因でした。

自分が大切にしている事柄が貶められたり、傷つけられたりすると、とても傷つきます。大切にしていればいるほど深く傷つき、その傷ついた心の反動として、悲しみや、怒りといった感情が湧き出てきます。

そのような感情に振り回されずにコントロールすることが大切になりますが、言うのは簡単、実践する事は難しいものです。仏教で断ち難い煩悩の中の根本的な一つに、怒り「瞋恚」が説かれているように、とてもコントロールしづらい感情なのです。それよりもお互いが相手を傷つけないようにすれば、悲しみや怒りの感情は出てきません。

ビジネス書などを読むと、よく相手を尊重する事が大切だと言われます。相手を尊重するという事は、相手自身だけでなくその人が大切にしている事柄も一緒に尊重する事だと思います。仮に傷つけられても感情を少しでも抑え、互いが相手を尊重し合うことが出来れば、争いや諍いは起きづらくなるのではないでしょうか。

民話の小箱（福島県）

子どもの好きな地蔵さん

●幸あるところ

昔々、ある村の道ばたの草むらに、小さな地蔵（じぞう）さんがころがっていました。

ある日のことです。

村の子どもたちが地蔵さんをゴロゴロころがしたり、ウマにしてまたがったりして遊んでいると、通りかかったお百姓（ひゃくしょう）のおばあさんが

「これこれ、地蔵さんをおもちゃにしておると、ばちがあたるぞ。なんとも、もったいない。こんな事をするなら、このばばがもらっていくよ」

そういって背負ってたカゴのなかに地蔵さんを入れて、村はずれの見はらしのいい丘の上に持っていきました。

そして草花をそなえて、まつってあげたのです。

すると、どうしたことでょう。

地蔵さんをおもちゃにして遊んでいた子どもたちが、次々と熱を出してしまったのです。

それほど苦しむ様子はありませんが、何日も何日も、熱はなかなか下りません。

「どうしたんだ？元気な子だったんだがな」

家の人たちが心配していると、一人の子どもの親の夢に地蔵さんが現れていいました。

「わしは子どもたちと遊びたかったのに。丘の上などにまつられて、おもしろくもない。はやく子どもたちと遊びたい」

口法話

父の教え

浄土宗を開かれた法然上人は、武家の生まれでした。九歳の時お父様が夜討ちに逢うという悲運に遭遇されます。瀕死のお父様は、当時勢至丸と呼ばれていた法然上人をそばに呼び寄せ「決して私の仇を討ってはならない」と遺言されました。武家が、仇を討つのは当たり前の時代でした。

その当たり前と違った言葉が今わの際にお父様の口から語られるのですが、そこにはものを見通す冷静さがあります。日ごろから、いかに深く物事を考えておられたかが感じとれます。

「そのあだ世々につきかたかるべし」というのが現在にまで伝えられているお父様の言葉です。つまり、「お前が仇を討てば、敵の子もまた仇として狙うだろう。もし、それが成されれば、お前の子もまた仇を討

子どもの親たちはびっくりして、さっそく丘の上から地蔵さんを村へ

そして病気にかかっている子どもの家を地蔵さんをつれて一軒一軒まわると、子どもたちはすっかり元気を取り戻しのです。

子どもたちの親たちはたいへん喜んで、地蔵さんを「子育て地蔵」と名ずけ、もともと地蔵さんがころがっていた道のかたわらに、小さな堂をたてまつることにしました。

この子育て地蔵さんは子どもたちと遊ぶ事が大好きで、鬼ごっこや、かくれんぼうなどをするとき、子どもたちはお堂から地蔵さんを出して

きて一緒に遊ぶ子はますます元気になり、けがや病気をしないので、村の親たちは大喜びです。

やがて子育て地蔵さんの話は、近くの村々へも広がっていきました。

子どもが病気で困っている人たちは地蔵さんをかりにきて、しばらくその子と一緒にしておきます。

すると子どもは元気になり、お礼として地蔵さんにかわいらしい着物を着せてやるので、地蔵さんの着物は増えるばかりでした。

その後、毎月二十八日にはお堂に集まって、にぎやかなお祭りをするようになったとさ。　おしまい

とうとする。そうして同じことが繰り返され、果てしのない苦の世界を招くことになる。」とおっしゃるのです。

法然上人は、後に「父の遺言忘れがたく」と述べられますが、この縁で出家し、ついには浄土の教えを日本の地に定着させられるのです。

今、地球の上では報復と称して、仇討が邁進しています。

八百年もの昔、堪え難い苦しみを乗り越え、敵も味方もない、誰もが救われていくお念仏の道をお広めくださった法然上人が、今の現実をどんなにかお嘆きになられることでしょう。

総本山知恩院布教師会ホームページより

書への誘い

「鷺飛白蓮開紅」　故林　錦洞書

貞林院瑞正寺　住職　林　清方

「鷺飛んで白く蓮開いて紅なり」梁の時代（約千五百年前の王朝）の武帝による節句です。

書体は隷書で書かれており、横長な字が特徴です。中国秦代に創始されたものといわれています。

中国の仏教史上、三武一宗の法難といわれる仏教弾圧の事件がありました。経済政策のため寺の仏像や梵鐘を潰し貨幣や農具に変え、労働力確保のため二十六万もの僧侶を還俗させてしまいました。しかし梁の武帝は仏教信仰者として高名であり、理想社会の実現を仏法に求めた人物でした。杜牧江南の春の詩にも「南朝四百八十寺」とあるように仏教精神に基づいた政治の功績をたたえています。

梁の武帝のように信心深い人は格調と品格を自ら備え、大自然を見つめる目も凡俗とは違うものを持っていたのでしょう。

この節句では鷺の白さと蓮の紅を紅白の対象、天然の美として謳い上げています。「ありのまま、すなおに」すべてを受け入れる精神、仏教の根本精神である慈悲と知恵がここにあると思います。

経済の繁栄ばかりに目が行き、人として本当に大切なものを見失いがちな昨今、どこか千五百年前の法難を彷彿させます。

アベノミクスもよいですが、念仏信仰に生きる者としては、本当の豊かさとは何かを忘れないよう心掛けたいものです。

春の彼岸法要ご案内

春の彼岸法要は次のとおり行いますので、お参りください。

三月二十一日(土) 正午より

彼岸法要は中日の正午に先祖代々のご回向をいたします。塔婆をご希望の方は、電話・ファックス・メール等にて寺までお申し込みください。

塔婆料　三千円
回向料　志納

「増上寺御忌大会」

寺報第十三号でご案内のとおり本年四月七日、住職の兄であり岩手教区善明寺住職の林英道上人が増上寺御忌大会の唱導師をお勤めします。

去る一月二十五日には大本山増上寺大殿におきまして唱導師の任命を意味する教書伝達式が厳かに行われました。当日は善明寺総代をはじめ寺族や法類など多数参加し、唱導師拝命を祝いました。

一月二十五日は法然上人のお命日であり、毎年この日に教書伝達式が行われています。

増上寺御法主八木季生台下が大殿にお出ましになられ、最初に法然上人への御回向をされ、その後三名の唱導師にそれぞれ教書が渡されました。本年は埼玉教区、東京教区、岩手教区から唱導師が任命されています。

御忌当日は芝の大門よりお練りの行列が出発し、増上寺山門をくぐり大殿に向かって歩きます。木遣りを先頭に多数の僧侶と可愛いお稚児さんも一緒に参加するなど時代絵巻さながらの光景を是非この機会にご覧いただきたいと思います。

思えば十三年前に先代がこの唱導師を拝命し、八十歳という年齢でよくこのような大役を果たしたものと感心します。この度このようなご縁をいただき親子二代で唱導師を勤めることができますこと大変有難いことと感謝しております。

「八木台下(右)より教書を頂く英道上人(左)」

施餓鬼法要のご案内

本年の施餓鬼法要は五月十四日（木）に厳修いたしますのでご予定下さい。ご案内につきましては、あらためて四月に発送いたします。

寺からのお知らせ

「門前の整備について」

本年五月中旬（施餓鬼会過ぎ）から七月上旬にかけて門前の塀建て替え及び駐車場の整備を行います。

現在の塀は昭和五十四年に貞林寺と瑞正寺合併の際に旧貞林寺より運ばれた大谷石によるものです。近年老朽化が激しく、倒壊等の安全性も考慮して建て替えを行うものです。工事期間中はご不便をおかけしますが、気を付けてお参りください。

なお今回の造立財源につきましては、本年十月が先代錦洞上人の七回忌に正当するため、その追善供養として行いますので、護持会費からではなく寺の財源と住職個人からの浄財を充当いたします。

◇これも仏教用語なの？◇

「修羅場（しゅらば）」

「大変な修羅場をくぐってきた」などとよく使われるこの言葉、どんな場所なのでしょうか。インド神話では帝釈天に娘を連れ去られた阿修羅が、娘を取り戻そうと壮絶な戦いを繰り返したとされており、この戦いの場を修羅場と言われています。そこから激しい闘争の場所やそのような場を連想させる状況などを修羅場と呼ぶようになりました。

（貞林院瑞正寺）